ニュース

バンダイが自社工場　17 年ぶり、フィリピンに中国から生産分散

【マニラ＝佐竹実】バンダイはフィリピンに国内外を含め 17 年ぶりとなる自社工場を建設する。

投資額は 14 億円で、2013 年夏をめどにカプセル玩具などの生産を始める。主力生産拠点の中国で人件費が高騰しており、同国に集中した生産体制を改めコストを削減する。フィリピンでは政情の安定などを背景に、日本企業による生産拠点建設が相次いでいる。

バンダイが新工場を建設するのは、マニラから車で1時間ほどのバタンガス州の工業団地。

当初は5ラインで、射出成型機 20～30 台、200 の塗装ブースを設ける。200～300 円程度で販売するカプセル玩具や、米国向けフィギュア（600～1000 円程度）などを生産する。

同社の海外生産比率は現在約8割で、このうち 96%を中国の協力工場に生産委託している。

新工場の稼働後は中国での生産比率を 90%程度に引き下げる。中国では急速な経済発展で人件費が高騰しており、フィリピンへの生産移転により3年間で 13 億円のコスト削減効果を見込む。

バンダイが自社工場を新設するのは、1996 年の中国・石家荘（現在は撤退）以来で、国内も含めて 17 年ぶり。新工場に先端的な設備を導入し、生産の効率化を進める。将来的な同国での人件費高騰も念頭に、効率化などの取り組みを自由にできない委託生産でなく、自社工場でコスト管理や品質向上のノウハウを蓄積する。

他の大手企業では、スマートフォン（高機能携帯電話）に使う積層セラミックコンデンサー最大手の村田製作所などがフィリピンに生産拠点を設けている。同社は来年1月の稼働を目指し拠点を建設中で、23 万平方メートルの敷地に今後さらに3つの工場を建て、同社の海外の生産拠点としては最大規模となる見通し。

キヤノンはプリンター工場を、ブラザー工業はインクカートリッジ工場を来年4月にそれぞれ稼働する。昨年のタイの洪水を受け、日本電産はハードディスク駆動装置（HDD）用モーターの生産の一部をタイからフィリピンに移す。

フィリピンでは 10 年にアキノ政権が発足して以来、政治が比較的安定している。外資誘致を担当する比経済区庁（PEZA）が税制優遇策を取っていることも奏功。11 年の直接投資額は約 2500 億ペソ（約 5000 億円）と、09 年の2倍近くに増えた。日本貿易振興機構（JETRO）も中国やタイなどに生産拠点を持つ企業を対象にしたセミナーを 11 月に開き、フィリピンへの投資を呼びかける。